

国語科学習指導案

学 級： 3年1組 40人

場 所： 3年1組 教室

指導者： 教諭 松元 智宏

1 単元名 和歌を選んで魅力を紹介しよう（教材名『和歌の世界』）

2 単元について

(1) 教材観

和歌は短い言葉の中に当時の人々の喜びや悲しみ、感動が込められており、時代を超越する人間の心の有り様を感じることができる。和歌に表れる心の有り様には、千年以上という長い月日を隔ててもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもあり、古典の学習はそれに気付くところに意義がある。

ただし、和歌に表れる心の有り様を理解するためには、少ない言葉の情報から想像を豊かにして読まなければならない。そのため和歌は、一つ一つの言葉に注目し、語句の用いられ方によりどのような効果を生んでいるかを考えさせる教材としてふさわしい。

また、本教材は後に続く「おくのほそ道」とともに、三年間の古典学習のまとめといった意味合いをもつ。好きな作品を選び、情景や作者の心情、作品のよさなどについて感じたことを整理して、一つ一つのことばの文脈上における意味を捉え、和歌のイメージの豊かさを味わわせるとともに、和歌の世界の背景の広さにも目を向けさせていきたい。

(2) 生徒観

本学級は落ち着いた雰囲気の中でじっくりと学習に取り組む生徒が多い。生徒たちは、俳句の学習において語句や表現の仕方に着目しながら想像豊かに捉えることを学んできた。しかし、様々な解釈が可能であることへの理解が不十分であったり、描かれた情景や場面を読み取る力が十分に育ってきいかなかったりするため、古典の現代語訳をしてもイメージできない生徒が多数存在する。現代文と違い、その世界をイメージすることは生徒にとって困難であると予想される。そこで、そのような生徒たちも古典の世界に親しめるように口語訳や語句の説明を簡単にまとめた補助資料を準備したり、和歌の情景を表わす写真を提示したりする指導の工夫が必要である。こうすることで生徒のイメージ化の手助けを図り、考える時間を確保したい。

また、活動的で自分から積極的に活動に参加する生徒ばかりではなく、中には消極的な生徒も存在する。話し合い活動ではペアからグループ、あるいはペアからペア同士など、聞き合いや教え合いがスムーズにできるような配慮が必要である。

(3) 指導観

本単元では和歌の形式や表現の効果を理解しながら読み、和歌に描かれた情景や心情を想像豊かにとらえる力を生徒に身に付けさせるために、選んだ和歌の魅力を紹介する活動を取り入れる。

選んだ和歌の魅力を紹介するという課題を解決するために、和歌に表れた心情や情景、表現の特徴や語句の使い方の工夫・効果に注意して読むことは、文章の表現の仕方を評価しながら読む能力を身に付けさせることにつながる。そのために和歌の紹介文を書くという言語活動を目的として単元を設定する。

また古典教材においては、古文独自の意味をもつ言葉や古文特有の文法、さらに古典の世界にしか登場しない事物が存在するため、説明中心の教師主体の指導に陥りがちである。そこで、これらを生徒が能動的に学習し、わからないことに関してはわかっていそうな人に聞くことで解決を図り理解を深める協働的な学習の仕組みを工夫したい。

3 単元の指導目標

- 学習に進んで取り組み、和歌について感想をもち、交流して考えを深めようとしている。【関心・意欲・態度】
- 和歌の形式や表現の特徴を理解しながら読み、和歌に描かれた情景や心情を想像豊かに捉えることができる。【読む能力】
- 和歌に詠まれた情景や心情に触れた紹介文を書くことを通して、古典の世界に親しんでいる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
① 和歌に用いられている語句の意味を理解し、情景や作者の思いを想像豊かに読み取ろうとしている。	① 和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について考えることができる。 ② 和歌の語句や表現に着目し情景や作者の思いを読み取っている。	① 歴史的背景などに注意して読んだり、和歌の紹介文を書いたりして古典の世界に親しんでいる。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	○ 「仮名序」を読み、昔の人々の和歌に対する思いを捉えさせる。 ○ 単元の学習活動と目標を確認し、見通しをもたせる。 ○ 三つの歌集の時代背景や特色をまとめさせる。 ○ 和歌のリズムや意味の切れめに注意して、音読させる。	アー① アー① オー① アー①
2	○ 柿本人麻呂の歌について「時代背景」「作者」「ことば」「表現」の補助資料を分担して読み取り、情景や心情を考えさせる。 ○ 歌を紹介している文章のうち、どれが一番興味を引かれるか考えさせる。	エー② エー②
3	○ 季節に関する4つの和歌の中から一つを選び、注釈や補助資料を参考に情景や心情を考えさせる。 ○ 考えた情景や心情をもとに紹介文を書かせる。	エー② エー②
4 (補)	○ 紹介文を班の中で発表し合い、アドバイスをさせる。 ○ 同じ和歌を担当した友達の紹介文を聞き合わせ、さらに練り上げた紹介文を書かせる。	エー② エー②
5	○ 紹介文を一筆箋に清書させる。 ○ 作品の比較をとおして時代や歌集による和歌の特色に気付かせ、伝統文化としての和歌について関心を深めさせる。	アー① オー①

5 本時の実際（4／5）

(1) 単元名 和歌を選んで魅力を紹介しよう（教材名『和歌の世界』）

(2) 学習目標

- 和歌の形式や表現の特徴を理解しながら読み、選んだ和歌の魅力を紹介することができる。

(3) 「判断基準」の設定

学習課題：どうすれば選んだ和歌の魅力を最大限に伝えられるだろうか。

評価規準	○ 和歌を読んで語句の意味や表現の効果などを考え、選んだ和歌の魅力を文章にまとめている。
評価の場面	○ 選んだ和歌の紹介文を練り上げていく場面
評価の対象	○ 生徒が選んだ和歌を紹介した文章
判断の要素	ア 叙述の記述 イ 和歌の形式や表現の特徴や情景や作者の思い
判断基準B	<p>ア 和歌のことばを引用して書いている。-----</p> <p>イ 和歌の形式や表現の特徴を捉え、情景や心情を想像して書いている。-----</p> <p>【予想される生徒の表現例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く」 この和歌の最大の魅力はすだれの動きだけで気持ちを表現しているところにある。「すだれ動かし秋の風吹く」ということばから、すだれが風で動いただけなのに「あの人 came!」と勘違いしてしまうくらい、「君」のことが好きなことが読み取れる。好きという言葉は一切使わずに気持ちを表現しているところがすごいと思った。</p> <p>「人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香にほひける」 この和歌の最大の魅力は、変わらぬ自然と人の心の移り変わりを対比しているところにある。人は十年二十年と月日が経つうちに心が変わっていくが故郷の梅の花は変わることなく咲いている。現代では建物が建って故郷が変わることもあるが、「花ぞ昔の香にほひける」と描かれた当時の故郷は美しかったのだろう。それに対して人の心が変わってしまうことを描いた歌である。</p> <p>「見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ」 この和歌の最大の魅力は、色彩を取り去った後の風景を描いているところにある。この和歌は「花も紅葉もなかりけり」とあえて美しいものを除去している。その後に残ったモノトーンの風景に水墨画のような風景に物寂しさを感じているのだろうか。</p> <p>「ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる」 この和歌の最大の魅力は、月だけが空に浮かんでいる情景が美しく想像されるところにある。当時は季節の訪れを報せるほととぎすの第一声を聞くことがとても雅なことであった。「残れる」という言葉から、その空はほととぎすの姿を探した空だったことがわかり、残念な気持ちが伝わった。</p> </div>
判断基準A	(判断基準Bに加えて) ○ よりの確で高度な表現で書き表すことができるとともに、時代背景について考慮しながら読みとることができている。

(4) 主体的・協働的な学びのための指導法

ア 学習課題設定の工夫

(7) 目的とする言語活動を位置付けた1単位時間の学習課題の設定

目的とする言語活動として「和歌を選んで魅力を紹介しよう」を設定する。具体的には国語科掲示板に選んだ和歌と紹介一筆箋を掲示することを伝える。この言語活動を実現するために解決しなければならない課題として「どうすれば選んだ和歌の魅力を最大限に伝えられるだろうか」という学習課題を設定する。これにより、解釈を追究し、よりよい表現で選んだ和歌の魅力を伝えるために生徒が協働的に思考・判断・表現できる場が設定され、生徒の主体的な学習を促すと考える。

(1) 実生活と結び付いた学習課題の設定

校内の国語科掲示板にふさわしい和歌を選ぶことは生徒にとって実生活に直結した課題である。そのため「複数の和歌の中から和歌を選び、その和歌の魅力を紹介する」という学習の見通しをもちやすい。このような学習課題を設定することは生徒の主体的な学習を促すとともに、多様な見方に触れさせることができるものとする。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(7) 課題追究の目的や視点を明らかにした交流活動の設定

自分の知識や価値観と照らしてどのように感じ、考えたのかを深く内面化して考えるためには、

他者の感じ方・考え方を聞き、それと自分の考えを比較するという過程が不可欠である。そのため、交流活動の際には自分とは違う視点から考えた選んだ和歌の魅力を聞くという活動を設定する。

(イ) 交流後の自己を振り返る場の設定

初めの紹介文と他者と交流して練り上げた後の紹介文を比較させる。その際、初めに考えた和歌の魅力と今の考えを比較し、ことばの捉え方がどのように変化したのか自覚させる。また、初めの紹介文と考えが変わらなかった生徒には変わらなかった理由を記述させる。

(5) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	主体的・協働的な学びのための指導法
導入	7分	一斉	1 既習事項を基に、本時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 柿本人麻呂の和歌と紹介文の例を提示して既習事項を想起させる。【補充始動】 	<p>ア-⑦] 言語活動を実現するための学習課題を設定する。</p> <p>ア-⑧] 実生活と結び付いた学習課題を設定する。</p>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">和歌を選んで魅力を紹介しよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうすれば選んだ和歌の魅力を最大限に伝えられるだろうか</div>		
展開	15分	班	2 前時に作成した和歌の紹介文を班で発表し、相互にアドバイスをする。	<ul style="list-style-type: none"> アドバイスする視点を明確にし、課題を浮かび上がらせる。 	<p>イ-⑦] 視点を明確にしてアドバイスをさせる。</p>
	11分	グループ	3 同じ和歌を選んだ者同士でグループを作り、選んだ和歌の魅力について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ和歌を選んだ者同士で3, 4人の班をつくらせる。 選んだ和歌の魅力として取り上げたことを確認させ、違う魅力を取り上げた生徒の意見を吟味させたり、誰も考えなかった視点から魅力を考察させたりする。 どのことばに着目して和歌を紹介するかで紹介される和歌の魅力が大きく変わることを理解させる。 	<p>イ-⑦] 異なる視点で魅力を紹介している生徒の感じ方・考え方に注目させる。</p>
開	10分	個	4 話し合いを基に改めて紹介文を書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介文を書き直さないと判断した生徒には修正しなかった理由を書かせる。 	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">判断基準Bの生徒の表現例参照</div>		
終末	3分	個	5 初めの紹介文と比較し、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ和歌の捉え方が変わったところなどに注目させる。【深化指導】 	<p>イ-⑧] ことばの捉え方やどの部分に着目するかで和歌の捉え方が変わることを思考・判断させる。</p>
	4分	一斉	6 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 評価カードを用いて項目ごとに自己評価させる。 	